

江崎 茗子

江崎 茗子 (EZAKI Moeko) Piano

ライブツヒ・ゲヴァントハウス大ホール、パリ・フィルハーモニー・ブルー
レーズホールにてソリストを務めたのをはじめ、日本、ドイツ、フランスを中心に演奏活動を行う。これまでに東京交響楽団、中部ドイツ放送交響楽団、Orchestre symphonique et
lyrique de Nancy 等と共に演じた。シャネル・ピグマリオン・ディズアーティストとして東京・ネクサスホールにて全六回のソロリサイタルを行った。

第8回ヴェローナ国際コンクール(イタリア)第2位およびクラシックソナタ賞、女性演奏家賞受賞。その他、第26回エピナル国際コンクール(フランス)入賞およびオーケストラ賞、現代曲賞、第80回日本音楽コンクールピアノ部門入選、第4回東京ピアノコンクール第2位など国内外で入賞を重ねる。

室内楽にも数多く取り組み、ベルリンフィルハーモニー室内楽ホール、ゲヴァントハウスメンデルスゾーンザール、ドレスデンシュターツカペレにて演奏するほか、Festival de musique St Amand de Vergt、ラヴェル音楽祭、Music Dialogueディスカバリー・シリーズ、シャネル室内楽シリーズ等に出演。ザルツブルク=モーツアルト国際室内楽コンクール第2位受賞。

桐朋女子高等学校音楽科首席卒業後、パリスコラ・カントルム音楽院にてテオドール・パラスキウェスコ、パリ国立高等音楽院にてフランク・ブライ、上田晴子の各氏に師事し修士課程を卒業。ライブツヒ・メンデルスゾーン音楽大学演奏家課程にてゲラルド・ファウト氏のもと研鑽を積み、2022年最高点で国家演奏家資格を取得、2023年より同大学にて教鞭を取る。

またメナヘム・プレスラー、マリア・ジョアン・ビレッシュ各氏の薰陶を受ける。

©Taira Tairadate

2025年
7月24日(木)

開場 18:30/開演 19:00

入場料:会員4,500円(座席指定可)/
一般5,000円/
学生2,500円(全席自由席)

ベートーヴェン 10のヴァイオリンとピアノのためのソナタの印象 Vol.3 〈幼き日の印象〉

ベートーヴェン×邦人作家 深化する対話、響き合う記憶、未来

石上 真由子

石上真由子 (ISHIGAMI Mayuko) Violin

日本音楽コンクール、ルーマニア国際音楽コンクール、宗次エンジェルヴァイオリンコンクール、チェコ音楽コンクール、バルトーコンクール等、国内外で優勝・受賞多数。

題名のない音楽会、NHKクラシック音楽館、NHK-FM名曲リサイタルやリサイタル・ノヴァ、「ラボーラーオーケストラ」等に出演。

東京交響楽団、東京都響交響楽団、読売日本交響楽団、日本フィルハーモニー交響楽団、京都市交響楽団、仙台フィルハーモニー管弦楽団、大阪交響楽団、大阪フィルハーモニー交響楽団、ブラショフ国立交響楽団、関西フィルハーモニー管弦楽団、東京シティフィルハーモニック管弦楽団、旧 東京ニューシティ管弦楽団、セントラル愛知交響楽団、愛知室内オーケストラ、山形交響楽団など、国内外で多数のオーケストラと共演。

Charlottesville Chamber Music Festival・Festival Academy Budapest・Elba Isola Musicale d'Europa・Lobero Theatre Chamber Music Projectなど、欧米各地の音楽祭・演奏会に出演。

長岡京室内アンサンブル、アンサンブル九条山メンバー。室内楽コンサートシリーズEnsemble Amoibe主宰。

Music Dialogue、CHANEL 室内楽、京都コンサートホール、公共ホール音楽活性化事業登録アーティスト。

京都市芸術新人賞、音楽クリティック・クラブ賞、大阪文化祭賞、青山音楽賞、藤堂音楽賞受賞。

日本コロムビアよりCD「ヤナーチェク:ヴァイオリン・ソナタ」、「ブルームス:ピアノとヴァイオリンのためのソナタ第1番」、ALTUSより「ラヴェル:ソイガース」好評発売中。

www.mayukoishigami.com

Twitter @MayukoIshigami /
Instagram @mayukoishigamiviolin

©Kohan Istvan

<プログラム>

エネスク：幼き日の印象 Op. 28

ラヴェル：ヴァイオリンとピアノのためのソナタ第1番 (遺作)

三善 晃：ヴァイオリン・ソナタ

ベートーヴェン：ピアノとヴァイオリンのためのソナタ第3番

変ホ長調 Op.12-3

*やむを得ない事情により日時・内容等の変更、中止等がある場合があります。



Shibuya
Mitake
Salon



Shibuya Mitake Salon (vol.179)



ベートーヴェン Vol.3 〈幼き日の印象〉

10のヴァイオリンとピアノのためのソナタの秘密

ベートーヴェン × 邦人作家

深化する対話、響き合う“記憶、未来”

シリーズ第3回を迎えるM&M デュオ（石上真由子×江崎萌子）のベートーヴェン全曲演奏シリーズ。

今回のプログラムは、エネスク、ラヴェル、三善晃、そしてベートーヴェン。

これまで「世俗と神秘」「狂喜と狂気」という濃密なコンセプトで展開してきた本企画が、この第3回において、さらに深化を遂げる気配を漂わせている。

今回のテーマは「幼き日の印象」。

時代や国境を超えて、作曲家たちが、それぞれに手探りで歩み始めた「創造のはじまり」に焦点が当たられる構成となっている。

エネスク 《幼き日の印象》。

この作品は、夢と現実の境界をぼんやりとしたゆたうような戸惑いが魅力だ。

情緒的な描写と繊細な音色を要するこの作品を、石上・江崎両氏がどのように紡ぎ出かに注目したい。

続くラヴェルの《ヴァイオリンとピアノのためのソナタ第1番（遺作）》では、若き日のラヴェルが見せた詩的、かつ実験的な感性が表出する。

洗練と瑞々しさを併せ持つこの作品に、デュオの知的で透明感のある音楽性がどう寄り添うのか、シリーズの中でもひとくわ味わい深い一幕となるだろう。

そして、三善晃《ヴァイオリン・ソナタ》の存在が、このプログラムをただの“時代横断”ではない、深い“文脈のある対話”へと昇華させる。

三善は戦後日本のクラシック音楽の中心的な存在として、“音と言葉”、“沈黙と響き”的関係を徹底的に問い続けた作曲家である。

彼の作品からは、音楽が、時代を超えた個人の記憶と密接に結びついていることを実感させられる。

そして今回取り上げるメインのベートーヴェン《ピアノとヴァイオリンのためのソナタ第3番》は、Op.12の中でも特に高い完成度を誇る作品であり、古典的形式の中で、遊び心と情熱があふれている。

石上氏が語るように、「ベートーヴェンのソナタは他作品と並べてもその存在感が決して薄れない」。

まさにその言葉どおり、今回も多様な作品群の中で、確かな重力を放つ中心として輝くだろう。

記憶、対話、沈黙、革新——。

M&M デュオが選び、奏でる4つの作品から浮かび上るのは、“時間”をめぐる壮大

2025年
7月24日(木)

開場 18:30 / 開演 19:00

入場料:会員4,500円(座席指定可) /

一般5,000円 /

学生2,500円(全席自由席)



な音の旅路かもしれない。

第1回・第2回で高く評価された構成力と音楽性が、第3回でどのような“風景”を描くのか。

このシリーズが単なるベートーヴェンの再訪ではなく、「現代におけるベートーヴェンの意義」を探る意欲的な対話であることが、さらに明らかになる公演となるだろう。

(渋谷美竹サロン)



Vol.1 世俗と神秘 〈2024年9月24日(火)〉

ベートーヴェン:ピアノとヴァイオリンのためのソナタ第1番 ニ長調 Op.12-1

シユーベルト:ソナチネ ニ長調 D.384 Op.137

シマノフスキ:ヴァイオリンとピアノのための3つの詩曲「神話」Op.30

武満徹:妖精の距離

Vol.2 狂喜と狂気 〈2024年12月11日(水)〉

ベートーヴェン:ピアノとヴァイオリンのためのソナタ第2番 イ長調 Op.12-2

プロコフィエフ:ヴァイオリン・ソナタ第1番 へ短調 Op.80

清水昭夫:狂詩曲 ～ヴァイオリンとピアノのための～

他

Vol.3 幼き日の印象 〈2025年7月24日(木)〉

エネスク:幼き日の印象 Op.28

ラヴェル:ヴァイオリンとピアノのためのソナタ第1番(遺作)

三善晃:ヴァイオリン・ソナタ

ベートーヴェン:ピアノとヴァイオリンのためのソナタ第3番 変ホ長調 Op.12-3



日本のトップクラスの若手演奏家が、
こだわり抜いた価値ある企画をお届けしていきます。

渋谷美竹サロン(美竹清花さん)が追求する
“本物の音楽”は、演奏者と参加者とわたしたちの、
三位一体の努力と対話から生まれます。

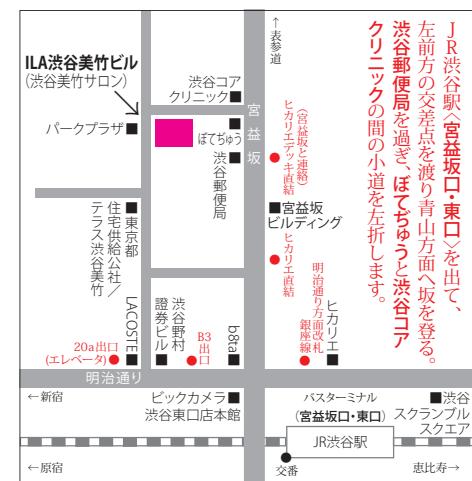


誕生。 濃谷駅、徒歩2分
クラシック音楽サロン、
宮益坂、

Shibuya
Mitake
Salon



Shibuya
Mitake
Salon



お問い合わせ

株式会社 ILA 渋谷美竹サロン (美竹清花さん)

東京都渋谷区渋谷1-12-8 (〒150-0002)

03-6452-6711 (平日 10:00-18:00)

070-2168-8484 (時間外可)

Fax 03(3409)0188



公式Webサイト